

大学の魅力と外科の魅力

花崎和弘

1 はじめに

昨年4月に高知へ参りました。長年に亘る信州大学および関連病院勤務中は大変お世話になりました。また高知大学への転勤に際して皆様から頂戴しました心温まる激励は生涯忘れることができません。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。当地でも山崎芳樹先生を代表とする松医会高知県支部の皆様との親交を通じて、信州大学時代の思い出話に花が咲くこともございます。本当に有難いことだと感謝しております。

先日愛媛での講演会に招待され、座長の先生から「まるでNHKの大河ドラマのような先生です」と紹介されました。昨年が「功名が辻」で今年が「風林火山」だからだそうです。

さて、今回こうした機会を与えてくださいました信州医学会の皆様にもエールを送る意味で、このところ元気を失いかけ、自信を無くしかけている大学人および外科医の魅力について私見を述べさせていただきます。

2 大学の魅力

大学の魅力はたくさんあります。以下が私のベスト3です。

- 1) 研究を行うには最高の環境
- 2) 学生や若い医師と交流する機会が多い
- 3) 一流の研究者や臨床医との出会いが可能

順番を追って簡単に述べさせていただきます。

1) 医師が日常臨床で遭遇する疑問点や問題点はテキストに書いてないことや未だ証明されていないことが多々あります。大学以外の環境ではそうした疑問点を解決するための研究はしたくてもできず、極めて困難と言えます。大学ならその分野の専門家に、「こんなわからない点があってどうしても明らかにしたいのですが、先生はどう思われますか」とすぐに相談ができます。それでOKが出れば、研究仮説と研究計画を立て、これが最も大変かつ重要ですが、研究費さえ捻出すればいつでも研究が開始できます。自分の立てた仮説が証明され、疑問点が解決できれば最高の喜びです。ただし、実際は研究すればするほど疑問点が多くなり、深みに嵌っていくことも多く経験します。研究を続けたい人が大学に残りたいという気持ちは良くわかります。

2) 最近の新医師臨床研修制度の発足で大学以外の病院でもこうした機会は徐々に増えています。しかし、物量的には学生教育、研修医教育のノウハウの蓄積が最も豊富で一番適しているのが大学です。特に地方における医学生への教育機関としては唯一の確固たる存在です。日ごろの学生教育だけでなく、医学部運動部の顧問などをしたりすると夜の街でも学生との交流が盛んになり、ストレス解消にもなるようです。「大学教授や大学教員の自殺者数は少ない」そうです。一因として若い学生などを相手に日ごろの鬱憤を晴らしているという説もあります。現在私は弓道部の顧問をしております。高知大学医学部運動部では最多の部員数を誇っており、昨年度の全医体で総合優勝する強豪でもあります。弓道部員たちは予め私の都合を最優先して飲み会などを計画してくれます。余程緊急の用事が入らない限り、こうした学生たちとの交流の場へは出かけていくように心がけています。

3) 「大学はピンキリだからなあ」という通説もございます。確かに他の世界ではとても通用しそうな

いような変な人もいるかもしれませんが、一流と呼ぶのにふさわしい人がいるのは事実です。「世界の〇〇」などと呼ばれる方も大学には所属しておられます。一流の研究者や臨床医との出会いが大学の魅力の一つです。そうした方たちとの出会いは刺激的で自分を brush up するのに役立つことも事実です。

3 外科の魅力

次に外科の魅力についてですが、これもたくさんあります。以下が私のベスト3です。

- 1) 診断された病変を直接自分で確認できる
 - 2) 患者さんを自分の手で助けられたという達成感を強く感じることができる
 - 3) 医学史では最古の学問に属し、現代医療においても最後の砦としての存在感がある
- 項目ごとに私見を述べさせていただきます。

1) 外科医は数学的なものの考え方をする方が多いようです。目に見えるものだけを信用する。「本当に大切なものは目にはなかなか見えないものだよ」みたいな文学的色彩の強い分野はどちらかというと苦手かもしれません。術前診断どおりなのか違うのか。手術場で直接自分の目で確かめるまではなかなか信用しませんし、確かめる時はワクワクします。そして実際目の前に現れた病変を通じて、どうやって手術をしたらいいのかを適切に判断し、手術を進めていく過程が外科医として最もやりがいのある時間帯です。数学の難問題を解くのにウンウンうなりながら糸口を探し出し、解決策を見出していく過程によく似ています。

2) 長時間に及ぶ悪性のがんなどの手術だけでなく、比較的時間のかからないヘルニアや虫垂炎などの良性疾患手術でも外科医でないと治癒できない疾患は多々あります。特に困難な疾患に対する手術を無事成功させた後の充実感は他では味わえないものがあります。外科医になって本当に良かったと思える瞬間です。手術の後に「今日はいいい仕事ができた」という心地よい達成感を持ちながら、仲間と飲むビールの味は外科医でないとなかなか味わえないものです。

3) 「白い巨塔」に代表される医療をテーマにしたテレビドラマの主人公は大抵外科医です。漫画の神様といわれた手塚治虫さんも外科医で、「ブラックジャック」が誕生したのも決して偶然ではありません。どんな難手術でもやり遂げてしまう天才外科医は手塚治虫氏から私たち外科医に向けられた応援メッセージです。日本人初の女性宇宙飛行士の向井千秋さんも心臓外科医です。昔から「内科は本道（ほんどう）、外科は外道（げどう）」と揶揄されますが、医学の歴史は外科のほうが内科より少しだけ古いそうです。古より外科医は最後の砦として最終治療を任せられている部分があったようです。「外科の先生に匙（さじ）を投げられたらもう終わりだ」と思っている患者さんも決して少なくありません。最後の砦に相応しい存在感のある外科医を目指して日々精進したいものです。

4 最後に

研究や仕事もそうですが、どんなことでも同じやるならできるだけ楽しくやりたいものです。これまでの医師としての活動を振り返りますと、幸いなことに、人生の節目ごとに良き指導者・友人・後輩たちに出会うことができました。現在も非常に恵まれた環境で仕事をさせていただいており、いつも感謝しています。

高知では信州時代に培った経験や蓄積を生かして、当地に相応しい革新的な外科教室作りに取り組んでいます。引き続きまして皆様からの温かいご支援・ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが、信州医学会の皆様のご健勝と信州大学医学部の益々のご発展を心からお祈りしています。

(高知大学医学部外科学講座外科1教授)